聖母の小さな学校 通信

京都府教育委員会認定フリースクール
聖母の小さな学校
2025 年
2 月 1 日発行
第 282 号

自分の道を勇気を持って進もう！

寒中の凛とした空気の中、冬山が木立の美しさを見せております。平素は、聖母の小さな学校の教育に格別のご理解、ご協力をいただき、感謝申し上げます。

3 学期も一か月を終え、生徒たちもそれぞれ、日々の学びを充実させております。聖母（の小さな学校）への登校が安定し、手伝いができるなど、家庭での生活も行動に広がりが見られるようになると、心の状態も良くなってきます。家庭内の会話も自然に多くなり、それにより、親も子もそれぞれの思いや考えを知り合うことができます。そしてまた、「このことについてはこう思っている、こう考えている」などと、互いに言葉にし、更に分かり合うことができていきます。相互の違いを発見したり、共感したりする喜びもあります。中学生、あるいは中卒生なら、進路についても正しく「思い」や「考え」を伝えあい、相談し合うことができます。中学 3 年生であっても、まだ大きな社会に出ることには不安があり、出ることはできないと判断すれば、更に本校で社会的に自立していく力を付ける学びを続け、来年、高校へ進学することも可能です。

現在の状況を積極性を持って正しくとらえ、家庭内での心置きない話し合いや学校との相談を通して作られていく、「その人にしかない進路」は、良いものになります。生徒も人との比較ではない「自分の進路」という思いを持っているようです。保護者も、高校へ提出するための入学願書を手に、長かった今までを振り返り、感無量の様子でした。「こんな日があるとは…」と涙ぐまれました。今まで、諦めず、真剣に子どもと共に不登校という事実を生きて来られたことを称えたいと思います。そこには計り知れないほどの不安や、どうすることもできない苦しさ、変化の見えない焦り、社会から受け入れられない疎外感など、避けて通りたい、経験したくないことが、山のようにあったはずです。しかし、このことに「出会ってしまった」現実を「受け止め」られました。そして、日々、その事と向き合う中で、それまでの、会話のない、暗い絶望的な親子の関係が、互いに分かり合おうとする「対話」を深める関係になっていきました。生徒はそのことを、「生きとる（＝生きている）気がする」「ぼくは生きていていいんだと思えるようになった」と表現してくれました。ある時の保護者会で、その親御さんが「この子が私の生き甲斐ですから…」と言われたことを思い出します。「この子は私の子」と言って抱きかかえ、また、子が抱きかかえられた瞬間です。親も子も生き返ったことでしょう。希望がそこに明かりを灯しました。このことを大事にしたいと思います。

また、生きることの難しさを持っている他の生徒は、その困難さを自分の中に閉じ込めるのではなく、人からの助けの受け方を体験的に学び、生活の質の向上に家族と共に取り組んでいます。共に取り組めるという事は、幸いなことです。一層の社会参加（学校復帰も含めて）ができるよう導いてゆきたいと思います。

いずれにしても、不登校という現実は、本人に何かの問題があるからとか、育て方が良くなかったからとか、個人に起因することではありません。当人にしてみると、降って湧いたようなことです。現代社会が引き起こしている現実です。本人も家族も、自分自身を責めたり、苦しめたりしないでください。そのために聖母の小さな学校はありますし、学校もそのために力になれるはずです。一人ひとりの現実の中から、日々の学びの中から、希望は生まれます。共に生きてゆきたいと思います。

今月もよろしくお願いいたします。

1/14「日展」・銀閣寺　見学

＜今月の主な行事＞

3 日（月）・26 日（水）ギター教室
4 日（火）・18 日（火）ウズベキスタン文化
12 日（水）華道教室
17 日（月）歴史学習
20 日（木）英会話教室
21 日（金）校外歴史学習「京街道を歩く」
25 日（火）調理実習
27 日（木）体育